

**製品名: TLK2 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab18983**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	90kDa

**抗原情報**

遺伝子名	TLK2
別名	TLK2; Serine/threonine-protein kinase tousled-like 2; HsHPK; PKU-alpha; Tousled-like kinase 2
遺伝子 ID	11011.0
SwissProt ID	Q86UE8
免疫原	抗血清はヒト TLK2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 191-240

**背景**

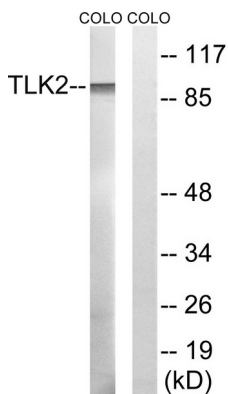
この遺伝子は、シロイヌナズナで初めて同定された核内セリン / スレオニンキナーゼをコードしています。コードされているタンパ

ク質は、ヒストン H3/H4 シャペロンのレベルを調節することにより、細胞周期の S 期におけるクロマチン構築の調節に関与すると考えられています。このタンパク質は、放射線による DNA 損傷の二本鎖切断修復に関与しています。この遺伝子の擬遺伝子は 10 番染色体と 17 番染色体上に存在します。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2013 年 9 月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質、補因子: マグネシウム、酵素制御: 細胞周期によって制御され、S 期に最大活性を示します。Ser-750 のリン酸化によって不活性化されるが、これは CHK1 によるものと考えられる。機能: S 期における DNA 二本鎖切断の発生に続いて、リン酸化によって迅速かつ一過的に阻害される。これは細胞周期チェックポイントおよび ATM 経路に依存し、クロマチン構築に関与するプロセスを制御すると考えられる。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。サブユニット: TLK1 とヘテロ二量体を形成する。ASF1A および ASF1B と相互作用する。組織特異性: 広く発現している。胎児胎盤、肝臓、腎臓、膵臓、心臓、骨格筋に存在。成体細胞株にも存在する。、

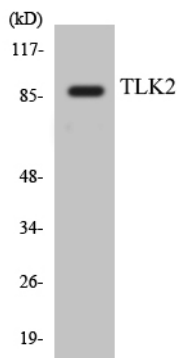
## 研究分野

細胞生物学、細胞周期、キナーゼ / ホスファターゼ、エピジェネティクスと核シグナル伝達、染色体構造、クロマチンアセンブリ

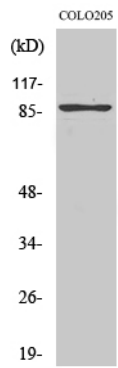
## 画像データ



TLK2 抗体を用いた COLO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



TLK2 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



TLK2 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は1:20000に希釈した。